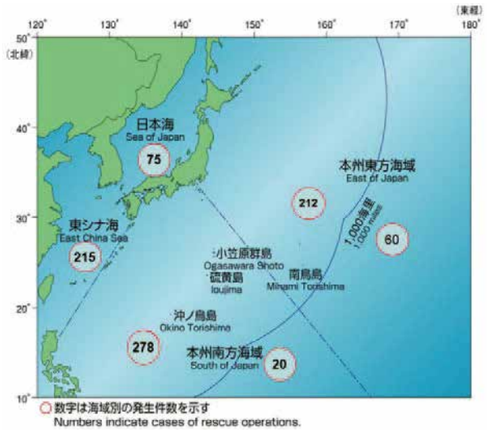
洋上救急活動報告

事業開始以来、平成29年6月30日までに860件の洋上救急事案に対応しています。

洋上救急事業は、全国健康保険協会や各諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、平成29年６月30日までに860件の事案に対応してきました。

これまでに傷病者893名に対し、医師1,117名、看護師515名が出動し、診療や治療を行っています。

■洋上救急発生海域図



○総発生件数860件（昭和60年10月から平成29年６月30日）

海上自衛隊救難ヘリコプターによる客船乗客の病院ヘリポートへの救急搬送

平成29年５月18日　13：07発生

平成29年５月18日午後１時７分、「船医から乗客１名が腸閉塞の疑いがあり、早急に医療機関への搬送必要」との診断を受けたと客船から海上保安庁へ洋上救急の要請があったが、天候不良（雷雨）のため、海上自衛隊第21航空群（館山市）へ災害派遣要請を行った。

午後３時４分、亀田総合病院のヘリポートにて同航空群館山航空基地の救難ヘリコプターUH－60Jに医師１名が同乗して出発。午後３時40分、UH－60Jが患者１名を機内に収容して同病院まで緊急搬送し、午後４時、同病院ヘリポートにて患者を引き継いだ。

【発生位置】　新島東方約２海里
【傷病者】　男性84歳（日本国籍　乗客）
【傷病名】　腹部大動脈瘤破裂疑い
【出動医療機関】　亀田総合病院
【出動勢力】　海上自衛隊館山航空基地
救難ヘリコプターUH－60J

患者吊上げの状況

船上にて船医、自衛隊員による患者の吊上げ準備

海上自衛隊ヘリコプター機内での医師による処置

写真提供：海上自衛隊

羽田空港東方にて海上保安庁羽田航空基地ヘリコプターにより貨物船から傷病者を吊上げ搬送

平成29年２月９日　17：40発生

平成29年２月９日午後５時43分、貨物船から「左腕、左脚が麻痺し、会話と自力歩行ができない乗組員がいる」旨の連絡があった。第二管区海上保安本部より横浜保土ヶ谷中央病院に対し、傷病者の状況を説明したところ、同病院より午後６時33分「早急に病院に搬送する必要がある」旨の医療助言を受け、該船船経由で同船船主へ、洋上救急の費用負担について説明したところ、午後６時58分、船主より「必要なすべての支払いに同意し、洋上救急を要請する」旨の連絡があった。

同２月10日午前５時、日本医科大学付属病院医師１名、羽田航空基地到着し、午前７時5分、羽田航空基地所属のヘリコプターMH806、同医師及び特殊救難隊員３名同乗のうえ羽田空港を出発。午前８時22分、MH806、羽田空港東方150海里沖合にて該船舶と会合。午前８時46分　患者吊り上げ機内収容完了、現場離脱。午前10時20分　MH806羽田空港着、患者及び医師１名降機。午前10時40分　患者を東京消防庁救急隊に引き継いだ。

【発生位置】　千葉県犬吠埼から113度約250海里
【傷病者】　男性53歳　甲板長（フィリピン国籍）
【傷病名】　脳出血
【出動医療機関】　日本医科大学付属病院（医師１名）
【出動勢力】　第三管区海上保安本部羽田航空基地
ヘリコプターMH806
特殊救難隊員３名

貨物船船上に降下し、傷病者を搬送する特殊救難隊員

海上保安庁ヘリコプター機内での医師による処置

沖縄東南東にて海上保安庁那覇航空基地ヘリコプターにより貨物船から傷病者を吊上げ搬送

平成29年４月24日　16：00発生

平成29年４月24日午前11時21分頃、貨物船から「23日から一等航海士が胸の痛みを訴えており、24日の朝、無線医療通信にて医者の診断を受けたところ、心臓疾患又は胃腸疾患の疑いがあり、すぐに病院へ搬送したほうが良いとの回答であったため協力願う。」との通報が入り、午後４時、船舶代理店から洋上救急の要請を受けた。

午後５時５分頃、那覇航空基地所属のヘリコプターMH974が医師１名及び機動救難士２名を同乗させ那覇航空基地を出発。午後５時51分、同船から患者の吊り上げ収容。午後６時25分那覇航空基地に到着後、患者を消防救急隊へ引き継いだ。

【発生位置】　喜屋武崎から東南東約67海里
【傷病者】　男性33歳（中国籍　一等航海士）
【傷病名】　胃潰瘍
【出動医療機関】　南部徳洲会病院（医師１名）
【出動勢力】　第十一管区海上保安本部那覇航空基地
ヘリコプターMH974
機動救難士２名

海上保安庁ヘリコプター機内での医師による処置

海上自衛隊ヘリコプターと海上保安庁航空機が連携し、漁船乗組員を搬送

平成29年５月９日　04：50発生

平成29年５月９日午前４時50分、漁船から第三管区海上保安本部運用司令センターに対し、甲板員がデッキから落下し負傷との通報があり、医療指示を受けたところ、「病院への緊急搬送の要あり」と助言があったことから、午前８時40分洋上救急の要請を受けた。

午前10時38分、特殊救難隊員２名及び日本医科大学付属病院医師２名が同乗した羽田航空基地飛行機LAJ501が羽田空港を出発。午後０時39分、災害派遣要請を受けた海上自衛隊硫黄島基地救難ヘリコプターUH－60Jが負傷者１名吊上げ収容。午後２時33分、硫黄島にて負傷者をLAJ501に移乗させ硫黄島を出発。午後４時25分、羽田空港に到着後、負傷者１名を東京消防庁救急隊へ引き継いだ。

【発生位置】　南鳥島西方135海里
【傷病者】　男性20歳（日本国籍　甲板員）
【疾病名】　全身打撲　顔面挫創　肋骨骨折
【出動医療機関】　日本医科大学付属病院　医師２名
【出動勢力】　第三管区海上保安本部羽田航空基地
飛行機LAJ501
特殊救難隊員２名
海上自衛隊硫黄島基地
救難ヘリコプターUH－60J

海上保安庁飛行機内での医師による処置

硫黄島で海上自衛隊から引継ぎ

海上保安庁航空機と巡視船が連携し、外国漁船乗組員を搬送

平成29年６月26日　03：45発生

平成29年６月26日午前５時38分頃、中国漁船の船主から第二管区海上保安本部に「乗組員が作業中にケガをしたので救助願いたい。」旨の通報があり、容態について、保土ヶ谷医療センターより医療助言を受けた結果、内臓に損傷のおそれがあるとのことから、午前９時45分、洋上救急の要請があった。

午後２時52分、機動救難士２名が同乗した仙台航空基地ヘリコプターＭＨ965、石巻赤十字病院ヘリポートにて、医師１名、看護師１名が同乗し出発、午後３時25分、巡視船くりこまに到着し、看護師降機。午後５時７分、MH965は該漁船と会合し、患者を吊上げ収容した。午後６時17分、ＭＨ965は巡視船くりこまに到着し、午後７時４分、医師、看護師および患者同乗し、くりこまを出発。午後８時８分、石巻赤十字病院ヘリポートに到着し、患者を病院に引継いだ。

【発生位置】　金華山灯台から70度約260海里
【傷病者】　男性47歳　三等航海士（中国籍）
【傷病名】　右背部肋骨骨折
【出動医療機関】　石巻赤十字病院（医師１名　看護師１名）
【出動勢力】　第二管区海上保安本部仙台航空基地
ヘリコプターＭＨ965
機動救難士２名
宮城海上保安部　巡視船くりこま

患者吊上げの状況

■その他の主な洋上救急の状況（平成29年６月30日現在）

発生日時	発生位置	傷病者	状　況
平成29年 1月20日 (13：05)	八丈島の東南東 730海里 北緯31度00分 東経153度51分	男性　51歳 三等航海士 フィリピン (傷病名) 虫垂炎	平成29年１月20日午後１時５分、船舶管理会社から第三管区海上保安本部運用司令センターに対し、管理船であるパナマ船籍LPG船の三等航海士が腹痛を訴え、船員保険無線医療センター医師に医療助言を求めたところ、虫垂炎の疑い、至急医療機関の診療が必要であるとの指示を受けたとの通報があり、午後２時36分、正式に洋上救急の要請を受けた。23日午前６時、羽田航空基地ヘリコプターＭＨ691に特殊救難隊員３名及び日本医科大学付属病院医師２名が同乗し出発。午前６時30分、該船舶と会合し、午前６時47分、患者１名吊上げ収容。午前７時20分、羽田空港に到着し、患者を東京消防庁救急隊に引継いだ。
平成29年 1月28日 (14：14)	石垣島から 190度82海里 北緯22度59分 東経123度55分	男性　35歳 甲板員 フィリピン (傷病名) 右精巣炎	平成29年１月28日午後２時14分、船舶管理会社から「管理貨物船内にて、乗組員１名が１月24日から片側睾丸の腫れと排尿時の痛みを訴えており、27日に医療指示を受け、処置を行ったが、28日には高熱及び症状の改善がみられないことから救助してほしい」との通報があり、午後３時30分洋上救急の要請を受けた。午後５時00分、機動救難士２名が同乗した那覇航空基地ヘリコプターＭＨ974に沖縄県立八重山病院の医師１名が同乗し、石垣航空基地を出発。午後５時37分、同船から患者を吊り上げ収容、午後６時03分、真栄里ヘリポートに到着し、患者を消防救急隊へ引き継いだ。
平成29年 3月18日 (08：55)	伊良湖岬灯台から 南東約41海里 北緯34度27分 東経148度15分	男性　53歳 甲板長 中国 (傷病名) 急性腸炎	平成29年３月18日午後８時55分、パナマ国籍貨物船から第四管区海上保安本部運用司令センターへ「船長が体調不良を訴えている」旨の通報あり、要請者から洋上救急の要請を受けた。午後11時45分、中部空港海上保安航空基地ヘリコプターＭＨ714に医師１名、看護師１名及び巡視船いせゆき潜水士２名が同乗し出発。19日午前０時34分、該船舶と会合し、吊り上げ収容。午前１時７分、中部空港に到着後、常滑市消防救急隊に患者１名を引継いだ。
平成29年 3月20日 (01：08)	野島埼から 真方位115度 430海里付近 北緯32度19分 東経147度23分	男性　33歳 機関員 日本 (傷病名) 脳出血の疑い	平成29年３月20日午前１時08分、漁船から海上保安庁運用司令センターに、同船機械員が強い頭痛・手の麻痺・呼吸が苦しいと訴え、横浜保土ヶ谷中央病院医師に医療助言を求めたところ、脳出血の疑い、至急医療機関の診療が必要であるとの指示を受けたとの通報があり、午前２時10分、正式に洋上救急の要請があった。午前５時、海上自衛隊災害派遣要請受理。午前７時39分、海上自衛隊厚木基地のUS-２に東海大学医学部付属病院医師１名、看護師１名が同乗し、厚木基地を出発。US-２は現場海域荒天のため、着水不可のため、現場を離脱した。21日午後０時35分、該漁船は自力にて銚子港に入港した。

地方支部の活動状況

平成29年１月から７月までの地方支部洋上救急支援協議会の活動状況等を紹介します。

●地方支部洋上救急支援協議会の総会等が開催されました

本年１月からこれまでに次のとおり地方支部の各地区洋上救急支援協議会の総会が開催され、それぞれ、平成28年度の活動状況等事業報告等のほか、平成29年度の事業計画や役員の選任等について審議されました。

また、総会前後には、洋上救急功労者の会長表彰がおこなわれるとともに、懇親会が開催され意見交換が行われました。

なお、日本水難救済会から、東海地区洋上救急支援協議会には向田理事長が、また、道南地区、日本海西部地区、沖縄地区、道東地区、関西・四国地区各洋上救急支援協議会には菊井常務理事が来賓として出席したほか、洋上救急功労者の会長表彰を直接行いました。

日本海西部地区総会で挨拶する菊井常務理事

道東地区総会での表彰

■平成28年度道南地区洋上救急支援協議会
（平成29年２月９日　1800～函館国際ホテル）

■平成28年度日本海西部地区洋上救急支援協議会
（平成29年２月17日　1630～舞鶴グランドホテル）

■平成28年度沖縄地区洋上救急支援協議会
（平成29年２月23日　1400～沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ）

■平成28年度道東地区洋上救急支援協議会
（平成29年３月19日　1030～ANAクラウンプラザホテル釧路）

■平成29年度北部九州地区洋上救急支援協議会
（平成29年６月27日　1330～門司港ホテル）

■平成29年度東海地区洋上救急支援協議会
（平成29年７月５日　1100～名古屋港ポートビル）

■平成29年度関西・四国地区洋上救急支援協議会
（平成29年７月11日　1625～神戸メリケンパークオリエンタルホテル）

各表彰を受章した名古屋掖済会病院長河野弘氏及び同病院山田秀則氏（上）、東海地区洋上救急支援協議会総会で来賓として挨拶を行う向田理事長（右）

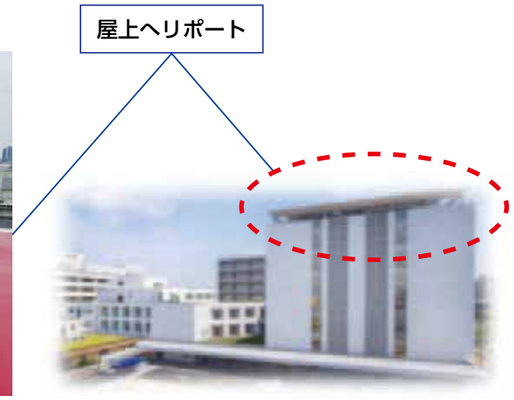
●向田理事長が名古屋掖済会病院のヘリポートを見学しました。

当会向田昌幸理事長は平成29年７月５日、東海地区洋上救急支援協議会通常総会に出席し、洋上救急に功労のあった名古屋掖済会病院（出動実績５回）及び同病院看護師長（出動実績３回）に対し、それぞれ当会会長からの団体表彰と個人表彰を伝達しました。また同理事長は名古屋掖済会病院を訪問し、河野院長の案内により、昨年10月に完成した新病棟屋上のヘリポートを見学しました。

このヘリポートは、ドクターヘリや県防災ヘリのみならず、これらより大型の海上保安庁のヘリコプターが離発着できるように、最大荷重が8.6トンに設計されています。

これまでは、洋上救急のために出動する同院の医師や看護師は海上保安庁の最寄りの航空基地がある中部空港まで陸行していましたが、このヘリポートが完成したことで、海上保安庁のヘリコプターによる直接送迎が可能となり、交通渋滞を心配することなく迅速な洋上救急への対応が可能になりました。

（左から　北川喜己副院長　向田昌幸理事長　河野弘院長　山田秀則看護師長）



名古屋掖済会病院新病棟

洋上救急慣熟訓練

洋上救急出動の要請を受け、医師や看護師は慣れない巡視船や航空機に乗り込んで遥か洋上まで出動し、厳しい自然条件の中、巡視船、航空機の動揺、振動、騒音などの悪条件のもとで救命治療を行うことになります。

このため、洋上救急事業では全国各地で慣熟訓練を行い、多数の医師、看護師に訓練に参加して頂き、航空機等に実際に搭乗して機内の状況、救命資機材の確認や、応急処置訓練を行うなど、現場の状況を事前に体験し出動に備えています。

慣熟訓練は、平成29年１月以降３月末までに、美保地区（日本海西部地方支部）、福岡地区（北部九州地方支部）、鹿児島地区（南九州地方支部）、奄美地区（南九州地方支部）の４地区で開催され、医療機関19機関、医師16名、看護師22名が参加しました。

美保地区（日本海西部地方支部）（H29.2.23実施）

傷病者収容後のヘリコプター機内状況確認

洋上救急の概要説明

福岡地区（北部九州地方支部）（H29.3.1実施）

航空機内による医療処置訓練

機体の説明及び見学

鹿児島地区（南九州地方支部）（H29.3.11実施）

救命資器材等の説明

傷病者収容後のヘリコプター機内状況確認

奄美地区（南九州地方支部）（H29.3.17実施）

巡応急処置訓練

巡視船内での訓練検討会

レスキュー41～地方水難救済会の現状（シリーズ⑥）

水難救済を通じて社会的要請に的確に応えていくための取り組みとして水難救済への思いを同じくする仲間において情報を交換し、意識の高揚を図るために平成27年（2015年）１月から「レスキュー41～地方水難救済会の現状」として地方組織について紹介しております。

今回は、岡山県水難救済会及び香川県水難救済会を紹介致します。

岡山県水難救済会

1　設立年月日

平成11年６月９日

2　所在地

〒702－8011
岡山県岡山市南区郡2番地（マリーナ岡山）
☎080－1641－9647
◎交通案内
・公共交通機関
両備バス（上山坂線・小串鉾立線）、東郡バス停下車、徒歩15分（岡山駅から車で約40分）

岡山県水難救済会の事務局が入居する事務所マリーナ岡山

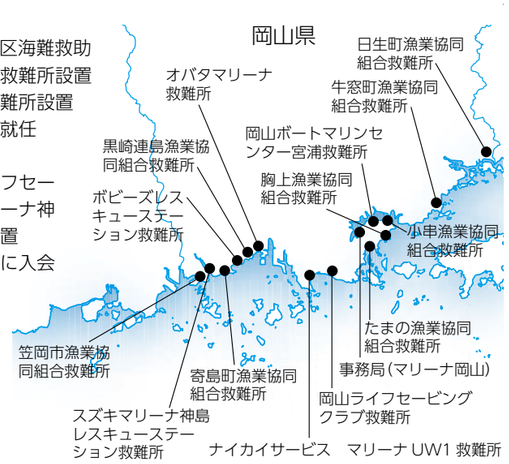
3　役職員の数

会　長　黒田　晋（すすむ）（玉野市長）
副会長　平田　晋也（しんや）（黒崎連島漁業協同組合代表理事組合長）
その他役員　14名（理事13名、監事１名）

黒田　晋 会長

4　沿革・歴史等

昭和63年 3月 7日	牛窓地区海難救助連絡協議会設立 （岡山県水難救済会設立時の基盤組織となる民間救助組織）
平成10年10月 5日	日本水難救済会の宮浦救難所設置
10月26日	日本水難救済会のオバタマリーナ救難所設置
平成11年 6月 9日	岡山県水難救済会を新たに設立、事務所をマリーナ岡山に置く。（事務局（財）岡山県牛窓海洋スポーツ振興会）初代会長に旧牛窓町長 東原和郎氏が就任 なお、設立にあたって、牛窓地区海難救助連絡協議会、㈱岡山マリンボードセンター、㈱オバタボートが一号正会員（救難所）となった。
平成12年 6月28日	牛窓地区海難救助連絡協議会救難所設置（本会届出）
平成14年 7月19日	日生町漁業協同組合救難所設置
平成19年 8月21日	胸上漁業協同組合救難所設置
平成20年 4月17日	マリーナUW１救難所設置、牛窓地区海難救助連絡協議会救難所を廃止し、牛窓町救難所設置
10月 1日	ボビーズレスキューステーション救難所設置
12月19日	三代目の会長として黒田玉野市長が就任 寄島町漁業協同組合救難所設置
平成21年 5月 1日	小串漁業協同組合救難所、岡山ライフセービングクラブ救難所及びスズキマリーナ神島レスキューステーション救難所設置
平成22年 6月22日	岡山県漁協女性部９漁協が賛助会員に入会
平成23年 6月 1日	黒崎漁業協同組合救難所設置
平成23年10月 1日	たまの漁業協同組合救難所設置
平成27年 6月 5日	笠岡市漁業協同組合救難所設置



5　救難（支）所・支所の数（平成29年４月末）

救難所：14箇所　　救難所員数201名

6　地域の特性等

岡山県は、瀬戸内海に面した約540kmの長い海岸線を有しており、古くから白砂青松の地として知られ、多数の島々を内包する瀬戸内海特有の穏やかな景観と美しい砂浜は、その大部分が瀬戸内海国立公園に指定されています。

中でも玉野市の渋川海岸、倉敷市の沙美海岸は「日本の渚100選」にも選ばれており、海水浴客のほか、ヨット、ウィンドサーフィンなどの多くのマリンスポーツ愛好者で賑わっています。また、漁業資源の豊かな恵みの海でもあり、古来より活発に漁業活動が行われています。

県内には水島港や宇野港といった海上交通の要衝として発展してきた重要港湾があり、中でも水島臨海工業地帯の玄関口である水島港は、現在では国際的な貿易港として大きな役割を果たしています。

一方、重要な海上交通路である岡山県沿岸の海域は、海岸線が複雑に入り組んでいるうえ、大小の島々が点在し、さらには潮流の早い水道等が多数存在するため「航海の難所」と知られており、この海域を危険物を積んだタンカーや貨物船、旅客漁船、プレジャーボート等の多くの船が行き交うことから水難事故発生の可能性が高い海域となっています。このため、岡山県沿岸で発生する水難事故や災害等に迅速かつ的確に対応できるよう、玉野・水島両海上保安部をはじめとする関係機関と緊密な連携のもと、水難救助活動に取り組んでいます。

7　主な保有資器材

AED全救難所に各１台、大人用救命胴衣190着、子供用救命胴衣40着、トランシーバー26台、双眼鏡10個、安全帽12個、救命浮環9個、強力ライト12個、救急箱９個、携帯用拡声器１個

救命浮環内蔵型青い羽根募金支援自販機を設置

8　保有救助船

約30隻（水上バイク１隻を含む。）

9　活動状況

（１）救助実績（平成28年度）
救助出動件数　　６件　救助人員４名
救助員出動人数　16名　救助船舶５隻
救助出動船舶　　５隻

（２）海難救助訓練等の実施状況（平成28年度）
①沿岸海難救助訓練（関係機関合同訓練）
参加救助船：　１隻
参 加 人 員：16名
②AED取扱訓練
参 加 人 員：11名

巡視艇・航空機と連携し海難救助訓練を実施

小学生に教材を贈呈する黒田会長

10　主に力を入れている事業

（１）水難事故防止のための若年齢層に対する安全指導等県下小学生やその父兄、教職員を対象として水難事故防止の意識向上を目的としたボランティア教室等を開催するとともに、教材として救命胴衣や携帯電話用防水パックの贈呈等を実施している。

（２）イベントでの海難防止活動
県下で開催されるトライアスロン大会（スイム）やオープンウォータースイミングに対しボランティアで警戒支援を実施して事故の未然防止に努めている。

おかやまライフセービングクラブ救難所による人命救助訓練の模様

（３）LGLによる海難防止啓発活動
賛助会員のおかやまライフガードレディース（LGL）が、海上保安部と協力して、港フェステバルやバレンタインデーに一般市民や漁業者に対し、救命胴衣の着用等海難防止の啓発活動を実施するとともに、同LGL主催の料理教室等においても、海難防止啓発用のエプロン、バンダナを着用して海難防止をアピールしている。

おかやまライフガードレディース（LGL）の皆さん

香川県水難救済会

1　設立年月日

平成11年３月13日

2　所在地（主たる事務所）

〒766－8501
香川県仲多度郡琴平町892番地１
金刀比羅宮
☎087－821－7011（連絡先）
◎交通案内
・公共交通機関
　JR琴平駅より徒歩20分
　琴電琴平駅より徒歩15分

主たる事務所となっている金刀比羅宮

大日本帝国水難救済会設立発起人総代　琴陵有常氏の銅像

3　役職員の数

会　長　琴陵　泰裕（金刀比羅宮　権宮司）
その他の役員12名

琴陵　泰裕 会長

4　沿革・歴史等

明治22年　5月　8日	大日本帝国水難救済会の設立発起人総代琴陵有常氏は、創立願を那珂郡長豊田元良氏を経由して香川県知事林董氏に提出
11月　3日	大日本帝国水難救済会の開設準備の一環として多度津救難所と興島救難所を設置、本部を讃岐琴平に、支部を東京、大阪、函館に定める
明治23年　4月　4日	引田救難所設置
明治25年　6月29日	本部を讃岐琴平より東京芝公園内に移転
大正　7年　2月　1日	引田救難所は三本松に移転、三本松救難所と改称 三本松救難所に引田救難支所設置
大正　8年10月　7日	香川県委員部を改め香川県支部設置
大正　9年　1月　1日	香川救難組合設置
2月26日	観音寺救難所設置、観音寺救難所に豊濱救難支所設置 高松救難組合及び坂出救難組合設置
大正10年　6月12日	福田救難所設置
10月18日	三本松救難所に丹生救難支所設置
大正11年11月　4日	三本松救難所に白鳥本町救難支所設置
大正15年　2月24日	観音寺救難所に伊吹救難支所設置
昭和　4年　7月　9日	土庄救難所設置
9月20日	林田救難組合設置
昭和　6年　2月　8日	津田救難組合設置（昭和12年～昭和53年活動中断）
昭和10年　2月20日	豊濱救難支所を豊浜救難所に昇格設置
昭和12年　1月10日	四海救難所設置
昭和24年に香川救難組合、高松救難組合、坂出救難組合、林田救難組合、津田救難組合を救難所に改称	
昭和31年　4月　1日	津田救難所廃止
昭和36年12月　7日	多度津救難所白方支所設置（推定）
昭和46年10月19日	三本松救難所の名称を大内救難所に改称
昭和53年　6月28日	津田救難所再設立
平成10年　9月22日	ペラガス救難所設置
10月20日	仁尾マリーナ救難所設置
平成11年　3月13日	香川県水難救済会を設立、事務所を仁尾マリーナに置く（一号正会員として多度津、ペラガス、仁尾マリーナ各救難所設置）
9月20日	大内救難所設立
平成21年　7月13日	庵治救難所、内海救難所、四海救難所設置
平成22年　1月　7日	土庄中央救難所設置
平成23年　3月14日	池田救難所、鴨庄救難所設置 主たる事務所を金刀比羅宮に移転
8月　3日	多度津救難所高見支所設置
平成25年12月　3日	引田救難所設置
平成28年　5月13日	牟礼救難所設置

5　救難所・支所の数（平成29年６月末日現在）

救難所：12箇所、支所２箇所　　救難所員数694名

6　地域の特性等

香川県は東西交通の要衝である備讃瀬戸航路を有していることから昼夜を問わず船舶の往来が途切れることはありません。

また、一年を通して比較的気象・海象の穏やかな海域であることから、マリンレジャー活動が盛んであり、トライアスロンの国際大会なども開催されていいます。

しかし、その反面、大小様々な水難事故が発生している海域であることから、定期的に救助訓練を実施し、突発的に発生する水難事故に備えています。

7　主な保有資器材

AED６台、双眼鏡４個、トランシーバー12台、救命胴衣175個、ヘルメット30個

仁尾マリーナ救難所所属　NIOMARINA
総トン数３トン、長さ7.02m、
平成15年８月就役

8　保有救助船

約480隻

9　活動状況

（１）活動実績（平成28年度）
　出動回数　２回
　出動救難所員　35名
　出動救助船　12隻

海難救助訓練の模様

（２）訓練の実施状況
　心肺蘇生法及びAED取扱い訓練

10 主に力を入れている事業

（１）救難所員の意識の向上
　救難所員に当会の一員としての誇りを持たせ、県民にその活動を広くアピールするため、当会事務局であり海上交通の守り神として広く知られる金刀比羅宮のカラーであるウコン色の会旗を全救難所員に配布し、救助船に掲揚している。

金刀比羅宮のカラーウコン色を彩った
香川県水難救済会会旗

（２）救助資機材の拡充及び取扱いの慣熟
　救難所員が出動の際に着用する当会ネーム入りの救命胴衣のほか、AED等の救助資機材を整備し、継続的に取扱い慣熟訓練を実施している。

心肺蘇生法及びAED取扱い訓練

（３）救難所の拡充推進
　水難への即応体制を確保するため、船舶の通航実態や水難の発生状況を勘案のうえ、継続的に救難所の拡充を推進している。

（４）青い羽根募金活動の推進
　当会の財政基盤を強化し、より良い水難救助体制を構築するため、青い羽根募金強調運動期間を中心とし、継続的に青い羽根募金活動を実施している。

浜田恵造香川県知事（左）との協定を締結する琴陵泰裕香川県水難救済会会長（右）

（５）大規模災害発生時の対応
　平成27年２月13日、香川県と香川県水難救済会は、香川県内に地震、津波、風水害その他の大規模災害が発生、又は発生のおそれがある場合、船舶による物資、要員、資機材等の緊急輸送業務を行うための協定を締結した。